

かわしまあきら 一九七九年生まれ。京都府出身。ツッコミ担当の田村裕と組んだ「麒麟」のボケを担当。二〇〇一年の第一回M-1グランプリで第五位となり、一気に知名度を上げる。現在はテレビを中心にレギュラー番組多数。「ぼくをつくった50のゲームたち」が好評発売中。

川島 兄貴が四つ上なんですけど、ふたりとも親の勤める遊びにはまらなかつたので、「周りの子は持ってっよ(笑)。

阿川 そういう古い時代に育ったのよ(笑)。

阿川 将棋倒しに五目並べ。ダイヤモンドゲームね。あとバンカーゲーム、ピッコロゲームっていうのもありましたね、私の子供時代には。

川島 ああ。たまにテレビでやる「昭和の遊び」みたいな番組でチラッと映るやつですね。

人生で一番幸せだったのは、ファミコンを手に入れた日。M-1は比べもんになりません(笑)。

川島 サッカーボールが八冊で交換とかそのくらいですから、えらい高嶺の花なんです(笑)。でも親はまさかそこまで貯められると思っないから、グリーンスタンプならフ

川島 エッ！子供にしたらとんでもない額じゃない。

阿川 エッ！子供にしたらとんでもない額じゃない。

阿川 お父様殿しい方なのね。他所は他所！ウチはウチだ！

川島 それ、よう言うてましたわ。親に買ってもらえないならどうしようかと思って、兄弟で考えたんですよ。家の近所にスーパーマーケットがあって、そこで買い物してもらえ

るファミコン買うて」としよっちゅう泣きつくんですけど、全然買うてもらわれへんくて。

阿川 自分で努力するんだってら許可しようよ。

川島 それからまず家の中の大搜索ですよ。そしたら、お母ちゃんが貯めてたグリーンスタンプが見つかりました。あれは多分、一回も引き換えてなかったんやろうと思うんですけど、缶の中にござり。兄貴とよっしゃあって言うて、二人で台紙に手分けして貼っていきました。手

阿川 自分たちで努力するんだってら許可しようよ。

川島 それからまず家の中の大搜索ですよ。そしたら、お母ちゃんが貯めてたグリーンスタンプが見つかりました。あれは多分、一回も引き換えてなかったんやろうと思うんですけど、缶の中にござり。兄貴とよっしゃあって言うて、二人で台紙に手分けして貼っていきました。手

るポイントを貯めようということになりまして。僕らが集めたのはグリーンスタンプ。百円でひとつもらえる切手みたいなシステムでした。台紙が八ページつづりの冊子になって、一ページに二十五カ所スタンプが貼れるようになって。

阿川 一ページ貯めるのに……二千五百円の買い物しなきゃならない。

川島 親父は放任ですね。ファミコンなんかビタ一文払うかって態度でした。母親は、僕らを買物に連れ出したときは、そのスーパーで多めに買い物してくれたり。要らへんもん買うくらいなら、多少小遣い

阿川 ご両親は？ 黙認？

川島 評判は相当悪かったでしょうね。これはさすがにあかんのちゃうかって思いながらも、ゴミ箱まで漁ったりしてました。小学一年生で、もうプライドは捨てちゃいましたね。

阿川 あの子たち、また来てるって言われそう。

川島 僕らのドラゴンクエストでしたね(笑)。毎日スーパーの出口に立って、知らない人に貰ったり、落ちてののを拾ったり。ほとんど毎日スーパーに通ってたんちゃうかな。

阿川 一日一時間とか？

芸人

川島明



第1324回

阿川の初子のこの人に会いたい

舞台上に現れるや「麒麟です」と魅惑の低音で囁くツカミで名高い川島明さん。テレビでお見かけしない日はないご活躍ですが、知られざる秘密の趣味がテレビゲーム!? ゲームと共に歩んだ笑いと涙の半生について伺いました。

阿川 一日一時間とか？

川島 大人もそうだったんですね。僕が五、六歳の時でした。

阿川 はあ。そんな小さかったの。ファミコンが最初のゲーム体験になるんですか？

川島 そうですね。発売当時は幼稚園だったんですけど、出てすぐの頃はやっぱり買ってもらえなかつたですよ。世間的にも、目え悪なって頭悪なるなんて噂が流れてましたから、ほとんど理解されてませんでした。

阿川 一日一時間とか？

川島 ありましたね。どこの家でも

くれてもよかったと思うんですけど...
阿川 いや、それも教育だったのよ。親に反発するとか、ひねくれたりとかはしなかったの？
川島 アハハ。言われてみれば、余計な悪さする余裕なかったですね。小一の一年間は、グリーンスタンプのことだけしか考えてなかったです。

阿川 欲しいものは簡単には手に入らないってことを、今の子供たちにも声を大にして伝えて下さいよ。
川島 愛がちゃいましたね。それで一年かけていざ引き換えとなって、そのスーパードにファミコンが搬入されるまで待ち遠しくて。結局、また毎日ショーケースを眺めにスーパードに通いました。そして運ばれてきたファミコンに「川島様」ってネームプレート貼られた日は、ほんま失神しそうになりましたよ(笑)。

阿川 よくやった！(笑) 感しかったでしょう。
川島 人生で一番興奮した瞬間だったと今でも思います。
阿川 M-1で決勝進出が決まったときより？
川島 そっちは手応えがあったとか、達成感という感じで。ファミコンを手に入れられた嬉しさとか幸せとは比べもんじゃないよ(笑)。

阿川 兄弟で努力して手に入れたものでもね。
川島 兄貴とはいまでもメチャクチャ仲が良いんですけど、この時の団結力のおかげかもしれない。少年が離れてるので、兄貴のことはずっと追っかけてた感じですね。同世代よりちょっと早く大人の趣味に触れられました。テレビゲームが、その後追いついた一番最初ですね。

阿川 ご本では川島さんのゲーム人生がたくさん綴られていますが、私が気に入ったのはゴルフゲームのページ。サイコーでした。
川島 小学生がバンカーだウォータールハザードだサンドウェッジだと言っていましたもんね。すごい影響力でしたよ。僕の学校で流行ったのは、自分の机を彫刻刀で削ってホールをつくることでした。

ラジオのハガキ投稿が就活でした

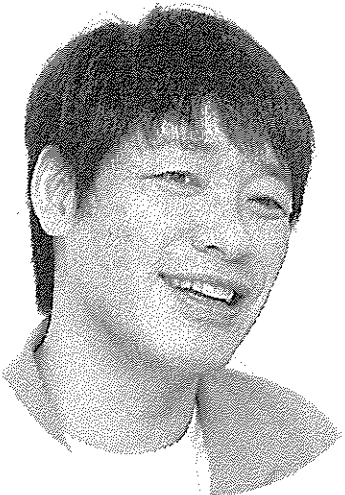
川島 一番最初に考えたのは親対策でした。頭悪くなるってイメージがあったゲームなんで、そんなことないよと。将棋のソフトをやらせて、こういうのもあんねんでって誤魔化していました。でも時間制限は厳しかったです。母親が買い物に行ってる小一時間の間だけ、家でゲームしていいよっていう決まりでした。
阿川 きっちりした(笑)両親！



阿川初子のこの人に会いたい

阿川 川島カントリークラブ！
川島 コンパスの針で穴あけて、ホールインワン狙ったり。大きく削ったへこみに校庭の砂詰めてバンカーつくってるやつもいましたからね。練習消しをこねてボールに見立てて、鉛筆をクラブ代わりに使ってた。懐かしいわ。
阿川 パー4にしときますか、とか言ってます(笑)。
川島 そうそう(笑)。大人も、そういう流行りをどこかで聞きつけて、クラブの形をした鉛筆キャップが文房具屋で売ってたりしましたもんね。ネットもなかった時代ですけど、多分全国で同じことやってる子供がいたんやろうなと思います。
阿川 子供って創造力あるんだねえ。両親のめりこむ川島兄弟を叱ったりはしませんでした？

川島 だから、兄弟としては、母の買い物時間をどれだけ延ばせるかが勝負でした。祖母の家が近くにあって、母は買い物に出るといつもそこに寄ることになってたんですけど、兄貴の命令で母を祖母の家引き止めて時間を稼ぐってことをやってました。
阿川 どうやって時間稼ぎしたんですか？



した。関西の笑いも身近でしたし、「ひょうきん族」の人氣もすごかったですよ。もうその時にはほんやり、芸人になりたいなと思ってました。むしろ、なんで皆ならへんねやろって思ってたくらいでした。
阿川 お兄様もお笑い好き？
川島 あ、やっぱりそうでした。いつの時か、兄貴が「これおもしろい

ぞ」ってラジオをひとつのイヤホンで聞いたことがありますね。
阿川 本場に仲良し兄弟なのね！
川島 雨上がり決死隊さんのラジオを聞いたのが中学生の時。当時、お二人は全然仕事がない状況だったよ。うで、ラジオでその恨みつらみをずっと喋ってたんです。そのドロドロした感じがメチャクチャ面白かったですね。いつかこの人たちと一緒に仕事したいなあと思像してました。
阿川 よく、クラスメイトや幼馴染とコンピを組むって聞くけど？
川島 いや、それが友達に芸人ならへんかとか、コンピ組まへんかって言う勇氣がありませんでした。だから一人で、ラジオ宛てにしよっちなネタハガキを書いてましたね。
阿川 大喜利の腕もそこで鍛えられたんですか？
川島 でも、レベルが高くて全然読

まれないんですよ。中学生なりに自信があるから、読まれへんのは郵便屋のせいにしないかと思って、ポストを監視したりしてました。
阿川 カワイイ。回収されてました？(笑)
川島 はい(笑)。自分が京都に住んでるせいで届くのが遅れてるんじゃないかと思いついて疑心暗鬼になってましたね。あんまり読まれない時期が続いたんで、やけにならって他のラジオ番組にハガキを書くようになりました。あんまり興味のない方がDJやってらした番組に、曲のリクエストとか出して。そしてそこでは普通に読まれるんですよ。
阿川 こっちには届くんかい！
川島 郵便状況の確認のためだったはずなのに、自分の書いた物がラジオで読み上げられるっていうことに

次第にハマり始めました。自分のラジオネームが聞こえるたびに、心臓がバクバクするんですよ。味をしめて、ホンマに色んなところにハガキ出しました。めっちゃ朝早くにおじいちゃんDJがやってる俳句のコーナーとか。
阿川 エーッ！ そんなところにまで？
川島 中学生が送ってくるだけで珍しいからまあ読まれるわけですよ。「またこの子から来ます」って言ってましたね。ラジオって投稿が採用されるとノベルティを送ってくれるんですけど、それがDJの方の写真入りテレホンカードだったんですね。ある日、「毎週、知らんお爺ちゃんのテレホンカードが明宛てにくるけど、何なんこれ？」って母が不審がったりしてましたね(笑)。
阿川 でも、やめなかったの？

阿部の初子の
この人に会いたい



川島 芸人になりたいっていうのは
すでに心の中にあっただので、自分と
してはラジオとか雑誌に投稿して名
前が呼ばれたり載ったりするのは、
就職活動みたいな認識ではいたかも
しれません。芸人なるから勉強せん
でええわって思っていました。
阿川 そこまで意図固く！ おしゃ
べりの方はどうだったんですか？
学校でも披露して人気者だったと
か？

川島 いやもう全然でした。プライ
ドは小学一年で捨ててたくせに、友
達におもしろいこと言うっていうのは
恥ずかしくて。この声もありまし
た。

阿川 川島さんのその低い声はいつ
から……？

川島 中学生の時でした。小さい
頃は、逆にすごく声が高かったん
です。家の電話に出ると「お嬢ちゃ
ん、お母さんいる？」って言われ
るくらいで。それがすごくコンプレ
クスでした。

阿川 ボイソプラノからの落差が
すごいね(笑)。

川島 変声期に入って、来た来たっ
て喜んでたら、こんな具合で。授業
中に教師から教科書読むよう当たら
れて「低い声で」はいって言った
ら、クラス中が振り返ったりして。
誰や、いまのおっさんは？ って

(笑)。

阿川 人前で話すのが苦手なのにお
笑い芸人になりたいっていうのが面
白いですね。

川島 学生時代に漫才をやった経験
がないのにありえへんですよ。一
人で黙々とハガキ書くのは作家の修
行みたいなものだし。吉本に入っ
たのは高校卒業して半年です。

阿川 厳しいご両親が反対しなかつ
たんですか？

川島 親には京都市役所を受けると
伝えてありました。全然勉強してこ
なかつたですし、受かるわけないか
らアリバイですよ。

阿川 芸人になるしかないという状
況づくりをしてた。子供の時から
親のコントロールドが上手いねえ
(笑)。

川島 バイトで貯めたお金をNSC
(吉本の芸人養成所)の入学金にし

した。合格の通知が郵送で来るん
ですけど、それを見つけた母を説得し
て、父はうるさいことを言わず認め
てくれましたね。

阿川 お兄さんには相談しなかつた
んですか？

川島 反対されるのが怖くて、誰に
も相談してませんでした。ビビり
のくせにね。後で聞いたら兄貴は僕が
芸人になりたがってるのうすうす
気づいてたみたいです。

阿川 相手の田村裕さんとは養成所
でお知り合いになられたんですよ
ね？

川島 漫才をやりたいのに勇気がな
いから、最初は必然的にピン芸人
でした。講師の前でネタを披露する
んですけど、内容はええけど声が小
さいとか言われてたんです。まあ褒
められたからええかと思ってたこ
ろに、田村が声かけてきたんです。

「おもしろかったから、コンビ組んだ
ってもええで」って。

阿川 ホームレス中学生ったら、偉
そうな(笑)。

川島 歳は僕の方が一学年上なん
ですけどね。でも、そういうことを言
ってくれたのは田村が初めてでし
た。自信満々の物の言い方だった
んで、きつとこの人はすごい人なん
や。って錯覚しました。「来週まで
にネタを書いて持ってきてや」って
言うから、はい！ って応えて。人の
ためにネタを書くのが初めてだった
から、最初は嬉しかったですね。田
村も僕のネタ見て「OK OK」って
言うし。

阿川 最初からコンビの息はびつた
りだったんですか？

川島 公園に行つてネタ合わせした
ら、田村は滑舌悪すぎて何言うてる
かわからん奴ってことに気づきま
した。あいつが喋っても砂嵐にしか
聞こえへんのですよ。

阿川 砂嵐(笑)。声の小さいのと
滑舌悪いのとの組み合わせですか。
川島 ボソボソとザーザーでした
ね。講師にも発声を直せってしょっ
ちゅう叱られてました。でも自分
の中にはなぜかすごく自信があっ
たんです。俺は絶対おもしろいって
いう。

そんな俺なら田村がおつてもなん
とかなるって考えました。相方を
ハンディキャップ扱いするのはアレ
です。

が、M-1で結果残すまでは、ギク
シャクもしましたね。

阿川 解散の危機もあったんです
か？

川島 考えたことありますよ。田
村に解散を切り出そうと思つて電
話したら、僕が話題に出す前に、
田村が「俺が足引張って悪いから、
解散してくれてええで」って言う
んですよ。そんな言葉聞いたら、
とないで返すしかないです。

阿川 アッハッハ。何か察したん
ですかね？ でも田村さんの『ホ
ームレス中学生』が話題になって
は、逆にちょっと不遇だったか
……？

二十年経つて今が一番楽しい

阿川 じゃ、憧れの雨上がり決死
隊さんと共演する機会も増えたん
ですね。

川島 芸歴二十年を過ぎましたけ
ど、今が一番楽しいですね。自分
で呼吸できてるっていうか。テレ
ビ番組なんかで、詳しくないこと
も詳しく体裁で出てくれて、依頼
もあつて、そういうのは断れるよ
うになりました。

阿川 お忙しいでしょうけど、今
もゲームはなさってますか？
川島 変わらずやっています。今
夢中

川島 三年くらいそういう時期が
ありました。テレビに出してもら
ても、相手の付録みたいな。ボケ
もカットされるみたいな状況が
続きました。収録呼ばれたのに、
僕だけマイクがないようなこと
もありました。

阿川 ひどい！ (低い声で) 麒麟
です！ もできないのね。

川島 『ホームレス中学生』は
話なので、ボケが挟みづらいん
ですよ。今それいらんねんみたい
な(笑)。じゃあ一人でなんかやる
かあと思つてR-1に出た決戦に
残ったから、今度は僕一人で呼
ばれる機会も増えて。「アメト
ーーク」とか「ゴッドタン」と
か。

阿川 行ったことあります！ 対馬
がゲームになつちゃうの！

川島 元寇の時代をテーマにした
ので、ようできてますよ。プレイ
ションも出ましたし、ゲーム
業界も熱いんでまだまだ離れな
いでですね。

阿川 川島さんも今や二児のお父
さんですけど、子供たちはゲーム
やるの？
川島 まだ小さいんで、テレビ

一筆御礼



ムという感じではないですけど、大
きくなったら言うてるかも知れ
ませんね。
阿川 パパ。新しいゲーム買つ
て。
川島 グリーンスタンプ集めえ(笑)

間近で聞くと本当に酔いしれるほ
どのいいお声。その内容がたとえ
ゲームの攻略法であろうとも、あ
るいはグリーンスタンプの集め方
であろうとも、まるで深夜のム
ディーツを耳元で囁かれています
が、ごとのウフンな気持ちにな
りました。しかし聞けば聞くほど、
川島家のご両親の正しい教育術
とご兄弟の仲の良さ、そしてお
母様のさりげない優しさ、そ
れがじわじわと心に染み込んで
まいります。学校の成績がど
れほど悪かったかは存じませ
んけれど、川島さんは間違いな
く、幼い頃から自分自身の知
恵と根性をコツコツ磨き上げ
、あたかもゲームのコマを前
に進めるがごとく、失敗しても
へこたれず、幸せの場をしっかりと
つかみ取ったのです。これから
先、またもや難関にぶち当た
ることもあろうかと思ひますが、
その落ち着きとおおらかな
人生のグリーンスタンプをさら
に積み上げてくださいます。